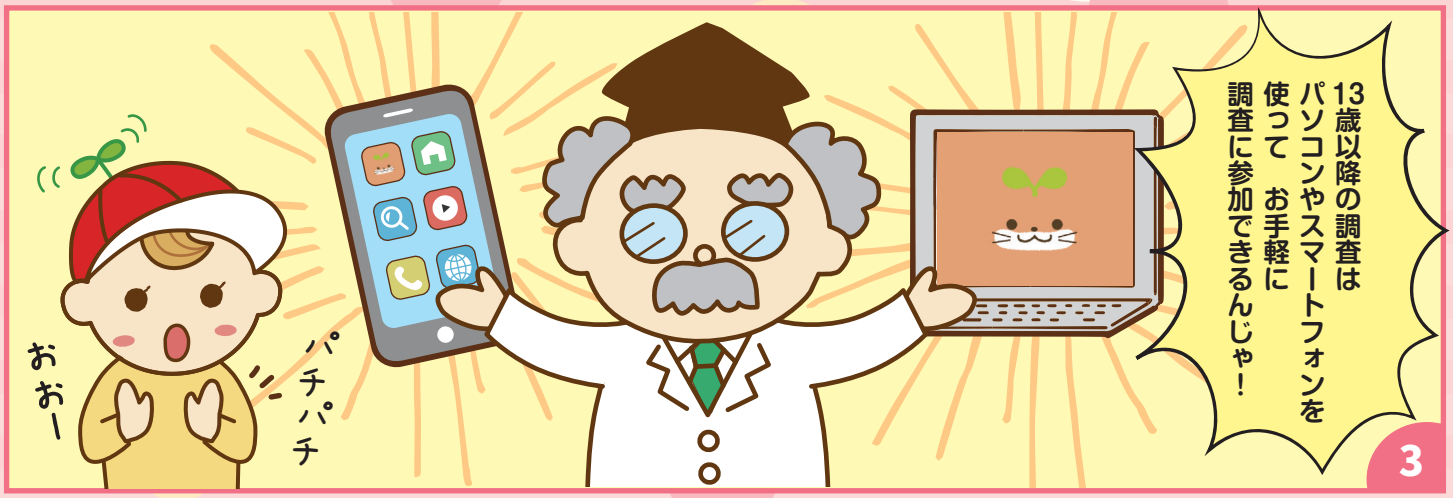
のべチル ぷらす＋

Vol.3
2024.12

発行：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）　南九州・沖縄ユニットセンター　宮崎大学サブユニットセンター　事務局

13歳以降の調査ってどんな感じ？

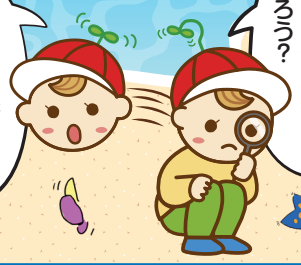


※エコチル調査では、保護者の方を「代諾者（だいだくしゃ）」と呼んでいます

探検！MIYAZAKI

宮崎の海の生き物のひみつ！

宮崎の海にて――



なんだこれ、ヒトデ？どうして腕が5本もあるんだろう？

わあ、これ何？変な動き～！どうやってごはんを食べるんだろう？

ねえ、見て！この貝、どうやって動いているの？

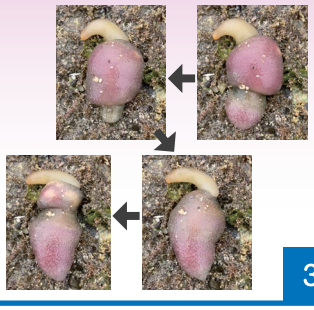
1

これは「ユムシ」という生物の一種だよ！上に見えるのが口吻（こうふん：くちの先っぽ）で、ここからプランクトンなどを取り込んで下にある肛門（こうもん：おしり）からいらないものを出しているよ！

ようこ先生

2

こんな風に体をのばしたり縮めたりしながらエサを食べたり動いたりしているんだ。このユムシは、宮崎以外ではなかなか見つからないんだよ。



3

たまに４本や６本、７本の腕を持つ個体もいるから探してみてね。

これは「イトマキヒトデ」。体の中心から、同じ形の腕が５つの方向に並んでいるよ。腕と言われてきたこの部分は、頭を作るためにはたらく遺伝子でできていることが分かってきたんだ。エサの匂いを５方向からかいだり、５方向に逃げたりできるようになってるんだ！

4

今度は、宮崎のような暖かい海にしかいない、「トゲアシガニ」。

5

ここのお腹の幅が狭いからオス。メスは卵を抱くから幅がもっと大きいよ。

6

これはカニに寄生する「フクロムシ」。幼生（ようせい：赤ちゃん）のときにカニに入り込み、栄養をもらいながら成長するの。大きくなると、オスのカニでも、卵を守るかのようにフクロムシを守るような行動を見せるよ。

7

次は宮崎の海岸にいる貝のお話。貝ってどうやって移動するか知ってる？

8

左の写真の貝たち、実はみんな〝腹足〟（ふくそく）っていう大きな足を持っているんだ。この足を地面にくっつけて、ねばねばの粘液（ねんえき）を出して、ぴったりくっついてなめらかに移動するよ。この粘液は、海水とちょっとのタンパク質と糖分でできているんだ。

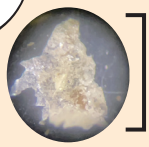
9

最後は〝ニセクロナマコ〟のことを紹介するよ。

彼らは砂や貝殻をそのまま取り込んで、必要な栄養だけを吸収して、残りをうんちとして出すよ

10

実は、宮崎に住むニセクロナマコのうんちの中から、3㎜くらいの小さなプラスチックの破片〝マイクロプラスチック〟が見つかったんだ。ナマコはプラスチックをエサだと思って食べてしまうことも分かっているんだよ。体の器官につまったらナマコはどうなるだろう？



約3㎜

とってもきれいな宮崎の海で、生き物たちがずっと元気に暮らせるといいな！

11

和田 葉子 先生 （解説・写真・生き物のイラスト） 宮崎大学農学部 海洋生物環境学科 助教

海岸に住む生き物を対象に、なぜそんな行動をするのか、どうしてその色や形をしているのか、他の生き物とどう関わっているのかを、観察や実験を通じて研究しています。私も2人の男の子を子育て中！子どもの視点はとってもおもしろい。研究者なのに、子どもの生物に関するなんで？にすぐに答えられないのがいつもとっても悔しいです。